

# 平成 1 2 年度試験研究成果

CM7 = 「アイマムピンク」

区分	普及	題名	品種 夏秋ぎく系小ぎく「CM7」(桃色 スプレー咲き)		
〔要約〕夏秋ぎく系小ぎく「CM7」は9月下旬咲きの桃色の小ぎくである。小ぎく「白丸」にスプレーギク「ケベック」を交雑して作出した品種であり、従来品種より側枝や孫芽の少ないスプレータイプである。					
キーワード	品種	小ぎく	夏秋ぎく系	園芸畑作部	花き研究室

## 1. 背景とねらい

岩手県の小ぎくは北上市を中心に県下全域で栽培されており、平成 11 年度には生産額が約 3 億円、作付け面積は 50ha と主要な品目の 1 つになっている。現在、栽培に用いられている種苗会社の品種は県外気象下で選抜、育成されたものであるため、岩手県の気象に適さない品種もある。

また、小ぎくに対する消費者の嗜好動向は変化しており、従来品種より側枝や孫芽の少ない、スプレー咲きで緑芯の小ぎく品種の人気が高い。

そこで、新品種育成にあたっては、側枝や孫芽の少ないスプレータイプであること、花色が良いことを目標とし、本県の立地条件に適合したオリジナル品種を選抜、育成した。

## 2. 技術の内容

### (1) 来歴

1996 年、10 月咲きの白色小ぎく「白丸」に橙色で 9 月咲きのスプレーギク「ケベック」を交雑し、得られた実生株を 1997 年に選抜した。1998 年に開花期、花色、病害虫の発生等について選抜を行い、優良な 1 系統を得た。1999 年から現地試作を行い、有望であると認められた。

### (2) 特性の概要

ア 開花期：9 月下旬。

イ 草丈：100 ~ 130 cm。

ウ 花：花弁は一重。舌状花色は淡紫ピンク (pale purplish pink)。管状花色は緑。

エ 花蕾数：「花小道」より少ない。

オ 葉：葉色、光沢度、厚さは中程度である。

カ 茎：強度は強い。

キ 花房形：段咲き形または段咲き形で頂花下がる。

ク 白さび病発生度：「花小道」と同程度。

## 3. 普及上の留意事項

(1) 気象条件やマルチの有無、施肥量等の栽培条件によっては開花期が前後する。

(2) 多肥栽培、または定植が早い場合には草丈が過度に伸長し、作業性が悪くなる。

(3) 白さび病防除は慣行通り行う。

## 4. 技術の適応地帯

(1) 適 応 地 域 県下全域

(2) 適 応 作 型 定植期：6 月上旬 ~ 中旬 露地栽培

(3) 普及見込み面積 5 ha

## 5. 当該事項に係る試験研究課題

[花き 1] - 1 - (2) - イ - (イ) ニュータイプ小ぎくの品種育成

## 6. 参考文献・資料

7. 試験成績の概要 (具体的なデータ)

表1. 「CM7」の開花期と切り花品質

試験場所	年次	開花期 (月/日)	切り花長 (cm)	葉数 (枚)	切り花重 (g)	分枝数 (本)	花蕾数 (個)	花房形*1
農研 センター	1999	9 / 25	124.5	52.1	88.8	12.2	50.4	段~円
	2000	9 / 25	108.5	48.9	77.6	14.9	43.2	段~円
現地	1999	9 / 27	103.2	46.1	62.0	11.5	31.5	円~段
	2000	9 / 28	146.5	54.8	196.9	12.0	66.2	段

農研センター：株間 8cm、条間 45cm、2 条植え 黒マルチ

現地：1999 年北上市岩崎 株間 10cm、2000 年北上市下江釣子 株間 8cm、1 条植え マルチなし

定植期：いずれも 5 月下旬

\* 1 花房形：段 段咲き 円 円錐形

表2. 品種特性の比較

品種名	開花期	草丈	花蕾数	花房形*2	白さび病発生度
「CM7」	9 月下旬	高	少	段~円	中
「花小道」	10 月上旬	高	多	平咲	中

注) 栽培委託農家からの聞き取り調査

\* 2 花房形：平咲 平咲き形

表3. 「CM7」の品種特性 (1999 年)

花色*3	管状花色	花の重ね	茎径 (mm)	茎強度	葉色	葉の 光沢度	葉の厚さ (mm)
淡紫ピンク (9202)	緑	1.5 列まで	5.5	強	中	中	0.5

  

花首長 (mm)	花首の発生*4 角度 (度)	上位 10 節以内の 2 次 側蕾*5 の出現度 (%)	葉身長 (mm)	葉幅 (mm)	管状花部の 直径 (mm)	花の直径 (mm)
53.3	30 ~ 39	64	62	46	10.5	36

\* 3 花色：JHS カラーチャートによる

\* 4 花首の発生角度：

\* 5 2 次側蕾：側枝に 2 次的に着生する花蕾のこと

